

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271401426
法人名	有限会社 気楽
事業所名	グループホーム ポテトの丘
所在地 (電話番号)	長崎県雲仙市愛野町乙 3501-3 (電話) 0957-27-5242

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成21年9月12日	評価確定日	平成21年10月24日

【情報提供票より】(平成21年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 6人, 非常勤 7人, 常勤換算	4.7人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造スレート葺造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20000・25000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	100,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	78歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国立病院機構長崎病院 くさの循環器内科 ひらゆ医院 田口歯科医院 深沢整形外科 松本医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から7年が経過した。周囲のじゃがいも畑と青い海は変わらずホームを包み込み、運営者である3姉妹の役員の方も、ご利用者への思いは全く変わっておらず、初心の思いを持ち続けながら、日々ご利用者の方々の生活を続けてこられた。「自身の力を発揮して主体的に暮らしていただく」というケア方針のもとに、ご利用者お一人お一人が生き生きとその方のペースで、ゆったりとした時間を過ごせるようにしている。年々レベルダウンするご利用者のケアに試行錯誤しながらも、終末期ケアにも取り組み、地域の関係機関や医師にも理解を得るため、あきらめない働きかけを続けている。“維持する”ことの難しさに心を悩ませることも多いが、ご利用者の笑顔と職員の明るさ温かさは、運営者を支えており、常に前を向いて歩き続けているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価以降、職員で更なる取り組みを行うために、代表や管理者、介護支援専門員を中心に話し合いを行った。代表的なものは、①ご利用者の心身状況の変化もあり、個別ケアのあり方の検討は継続して話し合いを続けてきた。合わせて、理念に通じる内容を話し合う機会も作ってきた。②運営推進会議の場では活発な意見交換が行われており、会議内容は職員にも伝えている。③設置された消火栓を使用し、地域の方と合同で訓練を行った。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 今年、自己評価から外部評価までの期間が限られていたこともあり、主に代表と管理者・介護支援専門員で自己評価を行った。日頃から、日々の介護に関する意見交換は職員全員で行われており、日々の職員の取り組み内容は自己評価に盛り込んでいった。次回は、職員全員で自己評価を行っていく予定にしている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>4つの地域の自治会長、老人会会長、地域包括支援センターの方々が出席し、ホーム内で運営推進会議を開催している。参加者の方々からは活発に意見を頂けており、ホーム内の課題や、地域の課題全般含めて、前向きな解決策の検討が行われている。他の部落で行われた“認知症の理解を深めるための寸劇”の内容が会議の場で紹介されると、「他の部落の老人会でも開きたい」ということになり、開催が決定した。会議の場を通して、良い取り組みの実現が広がる機会にもなっている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>ご家族の訪問時や電話を通して、日々の暮らしぶりや健康状態などを報告している。“ポテトの丘だより”も毎月発行されており、ご家族へ郵送されている。来訪時には、職員の方から声をかけ、ゆっくりとお話ができる時間も設けている。ご意見を頂いた場合は、会議の場で職員同士で検討し、検討した内容をご家族に報告している。今後も、ご家族の立場になって、ご家族の思いを伺っていきたくと考えている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方々との関係を大切にしており、地域で困っている方がおられたら相談に応じたり、必要な支援も続けてきた。地域の中学校に Outreach、“認知症”の理解を深めて頂くための寸劇を開設当初から行うなど、積極的な活動は新聞でも紹介されている。地域の方々との関係は良好で、玉ねぎや冬瓜、じゃがいもなどの差し入れも頂いている。地域の清掃活動に参加したり、敬老会での出しもの等も行っているが、地域の方々も高齢化してきており、今後も引き続き、地域の中でのホームの役割等の検討を続けていく予定である。地域の方々が集まる場所も作っていきたくと考えている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「気持ちおだやかに楽しく過ごしましょう」という理念を、役員の方3人で開設時に作られた。有限会社の社名も、「気楽」という、理念そのものの名前となっている。6つの“介護理念”も作られており、6つ目には「人間としての誇りを持ち、自分らしい最後を迎えたい」と、介護に対する基本姿勢を、ご利用者の気持ちになって表現されている。また、“基本方針”の文章の最後には、「・・障害になっても、当たり前の生活を送れるように手助けをします」という言葉で綴られている。	○	職員の入れ変わりもあっていることから、もう一度、全員で理念を見直ししていく予定にしており、地域密着という視点も意識しながら、理念を考えていく予定である。開設から7年が経過し、介護の難しさも日々体験されている状況である。この時期に、再度原点に立ち返って、“ポテトの丘”の理念を話し合うことで、課題と方向性が見えてくることも考えられる。今後の取り組みを期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関や廊下に、ボランティアの方が木で手作りされた“理念”が飾られている。代表を含め役員の方3人が、交代でケアの現場に入っていることから、日々、ご利用者への関わり方などの意見交換が行われている。職員も理念を理解しており、日々の業務の中で実践できるように心がけている。ミーティングの中でも、お一人お一人のご利用者の生活状況について話し合いが行われており、その方のお力が発揮頂ける方法の検討も続けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から、地域の中学校に出向き、“認知症”の理解を深めて頂くための寸劇を、役員の方や職員とともに行ってきた。地域の方々との関係は良好で、玉ねぎや冬瓜、じゃがいもなどの差し入れも頂いている。地域の清掃活動に参加したり、敬老会での出しもの等も行っているが、地域の方々も高齢化してきており、今後も引き続き、地域の中でのホームの役割等の検討を続けていく予定である。地域の方々が集える場所も、作っていきたくと考えられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価と外部評価結果を踏まえて、改善計画書を作成した。日々の介護を行うことが優先となり、思うように改善していくことができないものもあったが、ご利用者お一人お一人に向き合う姿勢は全く変わらず、前向きな介護を職員全員で続けてきた。今回の自己評価は、外部評価までの時間が限られていたこともあり、代表、管理者と介護支援専門員の3人が中心になり行った。	○	次回の自己評価は、職員全員で行っていきたく考えられている。日々の振り返りを職員全員で行うことで、日々、頑張ってきていることや課題を共有できる良い機会となることが考えられる。次回の取り組みを期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	和気あいあいとした感じで、運営推進会議が行われている。参加者の方々からの意見も多く、ホームの課題や地域の課題も含めて、前向きな検討が行われている。地域の中には独居の方も多く、地域の方向けの“支援マップ”作りが行われているが、4か所の自治会長の方々や老人会会長の方にも参加していることから、支援マップへの意見も頂けている。他の部落の勉強会の情報も共有できており、各部落の活動にも良い影響を与える場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員が参加くださり、ホームの状況の理解を頂けている。介護保険の認定申請手続きなどは支所に出向しているが、疑問点などは、主に広域連合の方に電話をしており、相談に応じて頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時に、代表や管理者、介護支援専門員などが、日々の暮らしぶりについて報告している。ご家族との会話を通して、ご家族が知りたい事を把握するように努めており、ケアプランへの意見や要望を頂くようにしている。毎月“ポテの丘だより”と受診記録を郵送している。状態が悪くなった時には、ご家族のお気持ちに配慮し、言葉を大切に選びながら報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がホームに来訪時、代表や管理者、介護支援専門員や職員の方から声かけをするように心がけている。来訪時には、昼食を一緒に食べて頂いたり、話し合いの場も設けている。毎年1回、家族会を開催しており、運営推進会議の報告も行っている。ご家族には、もっと多くご意見を言って頂きたいと願っており、意見交換をしやすい環境をこれからも作っていく予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	役員の方々と職員の関係は良好で、チームワークも保たれている。「職員の方々がいてくれるおかげで、自分たちは頑張れます」と、役員の方々は思っており、開設時より毎月のお給料日には、手書きメッセージを添えたり、職員の誕生日にはケーキをプレゼントしている。職員が働きやすい環境を作ることを大切にしており、調理担当の職員を配置したり、個人面談も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は、職員の育成を大切に考えており、開設当初より遠方の地域で行われている外部研修等にも積極的に参加できるようにしてきており、毎月のミーティングの時に、外部研修に参加した方が内容を伝達している。ご利用者の心身状況の変化に伴い、身体介護が増えてきている。病気に伴う行動障害が現われている方もおられ、ミーティングの時などの勉強会も続けている。職員は、自ら進んで研修を受講するようにしている。	○	ご利用者の重度化に伴い、今後は、ご利用者の心身状況に応じて、「食事介助・嚥下」などの研修受講ができるようにしていきたいと考えている。合わせて、職員個々の経験や要望に応じた育成計画も作成されていくことで、職員の目標にもつながっていくことが期待できる。更なる、職員の育成に向けた取り組みが行われていくことを期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は、同業者との交流にも前向きで、グループホーム協議会や遠方の地域のホームが主催する勉強会等にも、職員を参加させている。事例検討を一緒に行ったり、他ホームとの意見交換も続けている。職員の慰安旅行も兼ねて、他のホームの見学も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	雲仙市のネット情報で、各ホームの空き状況などがタイムリーに共有できるようになっている。居宅の介護支援専門員も、その情報を共有しており、在宅での生活が難しくなった場合など、入居の希望が入ることがある。緊急的に“いきなり”の入居も多いが、なるべく、病院などに事前に訪問し、ご本人とお会いするようにしている。事前の生活歴等の情報が少ない場合も多く、入居から1か月の間に、ご本人の生活ペースや思い等の全ての情報を知るように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員とご利用者は、同じ時を共有し喜怒哀楽を共にしながら、生活をしている。ご利用者から、その土地の習慣や方言等を日々の生活を通して教えてもらっている。介護の時に、「ありがとう」「おいしいね」などのお言葉をかけて頂くことも多く、仕事へのやりがいを感じるひと時となっている。会話が難しい方からも、「気を付けてね」と言ってもらう場面もあり、ご利用者の優しさに日々支えて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	経験の長い職員も多く、ご利用者と共に生活を送ってこられた。以前は、会話を通して意思疎通ができていた方が、ご自分から意思を伝えることが難しくなった方もおられる。今までの生活歴や、日々の表情や行動、しぐさなどを大切に感じ取りながら、「歩きたい」と言うお気持ちや、「お花が好きなので、部屋に飾りたい」と言う願いを汲み取る努力を続けてきている。ご本人が、安心して意志を伝えられるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の一部を活用している。ご利用者お一人お一人の心身状況や思い、今までの生活習慣等も踏まえて、ご家族にも相談しながら介護計画を作成している。意思疎通が難しくなっている方も多く、日々の行動の背景(ご本人の思い)を把握しながら介護計画が作成されている。ご利用者を見つめながらの介護計画であり、日々の介護の結果、“できること”が増えてきている方もおられる。ご家族や医師からも意見を頂きながら、職員全員で介護計画作成のための話し合いが行われている。	○	今後も更に、ご利用者の笑顔が増え、心身機能の維持、向上につながる介護を目指しておられ、日々のケアによって日に日に元気になっておられる方も多い。行動障害の背景にあるご本人の思いも大切にされていることから、その思いをニーズ欄に表現されてみてはどうかであろうか。更に、ご本人とご家族の役割なども明記していくことで、よりご本人本位の計画になっていくと思われる。今後の取り組みを期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の個別記録は、ご利用者のセルフや表情も意識しながら記録に残されており、毎日の申し送りで共有されている。要望や状態に変化が見られない場合でも、月に2回のミーティングで検討を続けており、ご利用者も一緒に参加している。日々の関わりの中で、ご利用者やご家族の要望や状態に変化が生じた場合は、設定した時期の前でも変更を行い、新たな気付きや意見が出された場合は、それらを計画に反映させるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	安心してホームで暮らして頂くために、日々の生活の中での健康管理には配慮が行われている。顔色、表情、歩き方等の微妙な変化の把握にも努めており、医師への相談もタイムリーに行われている。ホームの看護師とも24時間連絡が取れる体制があり、昨年の5月から、入院された方はおられない。ご利用者個別の要望に応じて、ご主人が入院されている病院にお連れしたり、親族の葬儀に職員も同行する等、お一人お一人の要望に対して柔軟な対応を続けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に、ご利用者やご家族の希望をお聞きし、以前からのかかりつけ医に受療されている方もおられる。職員が受診介助を行っているが、かかりつけ医の受診や通院が難しい場合は協力病院の医師に往診をして頂いている。受診記録はお便りと一緒に請求時にお送りしている。週に一度、訪問看護師がご利用者の健康チェックを行っている。心身ともに状態の変化に応じて、ホームの看護師と訪問看護師、医師と連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで、お一人の看取りケアをホームで行った。「利用者様が重度化した場合の方針や看取りに関する指針」を重要事項説明書にも具体的に明記しており、利用開始時にお伝えしている。ご本人やご家族の、その時その時の意向や思いを聴きながら、職員全員で最期まで希望を叶えられる支援をしたいと考えている。かかりつけ医との話し合いも行っており、訪問看護ステーションとの連携も取れている。	○	ご家族の意向を重視しているが、ご家族のお気持ちも揺れ動くことから、意向の把握ができていないご家族もおられる。今後は、時期を見ながらも、全員の方々の“終末期の意向”の把握に努めていきたいと考えられている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者や介護支援専門員は、一人一人の職員が、より細やかにご利用者の自尊心に配慮した対応が取れるようにしたいと考えている。ミーティングの時に、ご利用者の方が参加される場合も多いが、その時は暗号を使用し、個人が特定できないようにする等、日々の言葉かけや対応についても心配りが行われている。	○	個人情報の保護に関しても、入職時に誓約書を書いて頂いており、職員も意識して取り組んでいるが、記録の最中に急な対応が発生した時に、うっかり個人記録を開いたまま席を離れることがある。また、職員の言動が気になる場合は、話し合う時間を持ったり、職員同士で伝え合えるようにしているが、今後も引き続き、お互いに注意をしていきたいと考えている。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リハビリを目的として、日に2回程度歩行訓練を行っている。大まかな日課はあるが、ご利用者に無理強いをすることはなく、それぞれの方がご自分のペースで生活して頂けるように支援している。心身状況も異なるため、ご利用者をご自分の思いで自由に生活して頂けるよう、ご利用者の食事や入浴など、できる限りご利用者の希望に沿えるよう時間調整が行われている。	○	行動障害に伴う精神面の変化や心身状況の低下に伴い、より個別の取り組みに努めているが、職員は常々「この方法で良いのだろうか」と模索している。介護計画の3表等も活用し、ご利用者個別の活動(心理も含めて)パターンを記録に残してみられてはいいかがだろうか。職員全員で共有できる記録にもなり、“その人らしい暮らし”の把握や行動変化の早期発見もしやすくなると思われる。今後の取り組みを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	さりげない声かけや会話を通して、ゆったりと食事ができる雰囲気になっている。ツワむき等の下ごしらえ・下膳や食器洗い・茶碗を拭くなど、その方の力に合わせた役割を担って頂いており、職員も一緒に食卓につき食事を楽しんでいる。汁物も、味噌汁・吸い物など味に変化をもたせ、ぬっぺりなどの郷土料理も採り入れている。1人ひとりのペースや意欲、好みなどを大切に、ご利用者同士の関係にも細かい配慮がなされ、和やかな食事時間となるように配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日7:30から17:00くらいまで、いつでも入浴できるようにしている。体調にも配慮しながら、入浴している時間や湯温の好みにも配慮し、1人ひとりの状況やタイミングに合わせて入浴をして頂いている。入浴をあまり好まない方には、職員が声かけを工夫し、2～3日に一度はお風呂に入って頂けるようにしている。季節に応じて、菖蒲湯やゆず湯なども楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物のタオルや布巾をたたんだり、お茶碗を拭くなどの役割を担って頂いている。心身状況の低下に伴い役割が少なくなってきたが、できる限り、お力を発揮して頂いている。お部屋のベッドで一日過ごされる方も、ドアを開けてホールの物音が伝わるように配慮し、居室で心地よく過ごせるように、使い慣れた箏箏やぬいぐるみなどが置かれている。意思疎通が図りにくい方には、職員が常に声をかけており、家族が持って来られた音楽をかけるなどの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は庭に出て、ホームの前の海を眺めることができる。なるべく体調に合わせて、外出ができるようにしているが、心身状況の変化に応じて、以前に比べて外出の回数は減ってきており、職員も残念に思っている。そうめん流しなどの外食に行くなど、少しでも楽しい外出ができるような取り組みを続けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間は施錠をしているが、日中は鍵をかけることはなく、自由に出入りが行えるようになっており、ご利用者が自由に庭に出られるようにしている。職員は日頃からご利用者の行動などに気を配り、自由に生活できる配慮を続けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームのそばに消火栓が設置されており、地域の方も50人くらい集まり消防訓練が行われた。年に2回、職員、ご利用者、地域の方、消防団の方と、夜間の災害も含めての訓練を行っており、避難場所も確保されている。ホームでは災害時に備えて、飲料水や食料品、お菓子、毛布や炭、懐中電灯などの備品が常備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の日報に水分量や摂取量を記録しており、週1回、体重測定を行っている。ご利用者の活動量・年齢・体型を見ながら、個別の調理を行い、時間帯も柔軟に摂取できるように支援している。水分は1000ml以上摂取ができるようにし、野菜ジュースや牛乳など、好みに応じて選べるようにしている。食事の摂取量が少ない時は、スティックパンやバナナ、おにぎりなどを準備しており、嚥下状態に応じて、とろみ製材やエンシュアゼリーを使用するなどの工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「長い真っ直ぐな廊下の空間にはしたくなかった」との代表の思いもあり、設計へのこだわりがあらゆる所に見られている。ホーム全体に木の温もりが感じられ、天井も高く開放感がある。ホームの至る所には、ボランティアの方が作られた木の家具などが配置されており、ご家族が書いて下さった絵も飾られている。ホールには、4人掛けのテーブルが3つあり、自由にレイアウト変更ができるようになっている。廊下にもソファがあり、思い思いの場所で過ごせるようになっている。換気も定期的に行われ、空気清浄機も活用し、匂いがこもらないように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンなどはホームの備え付けであるが、入居時には、ご家族にお願いして、自宅で使っていた馴染みの物を持ってきて頂くようにしている。ご本人が歌が好きということで、ご家族がCDやラジオを持参して下さった。ご家族の写真が飾られている方もおられる。お花が好きな方には、お部屋にお花を飾るようにしている。お部屋の窓の外が、白い壁だけが見えるお部屋があったが、ボランティアの方が壁に絵を描いて下さった。常に、ご利用者の視点で、ホーム作りを続けている。		